

『地域はみんなの楽校プロジェクト』

たにじゅうごう魂を次世代へ！！～集まる・学ぶ・伝える・つなぐ～

江津市立谷住郷公民館



【ホームページ画面】

1 谷住郷公民館の概要

谷住郷公民館は、江津市の南部（桜江町）に位置し、一級河川「江の川」沿いの川と山々に囲まれた自然豊かなところにあります。

人口535人、世帯数205世帯、高齢化率35%、8自治会で構成されており、主な産業は水稻・野菜・茶業です。

谷住郷公民館は、平成3年に開館し、平成13年に桜江町内の小学校統合に伴い谷住郷小学校跡地に公民館が移転、社会教育施設として各種学習機会の提供や家庭教育の支援、20の自主組織団体と趣味のグループ活動の支援を行っています。

また、桜江町内5つの公民館からなる「さくらえ公民館連絡会」では、さくらえプレーパークや、総合文化展などの合同事業を開催し、地域の活性化を目指しています。



【さくらえプレーパーク】



【総合文化展：5館の力作を展示】

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

- ア 子ども達が地域の産業や伝統文化に触れることで、ふるさとへの愛着を深める。
- イ 高齢者が豊かな人生経験や優れた知識を活かせる居場所や出番をつくる。
- ウ 地域住民同士が語り合い、地域の課題を見出すとともに、地域社会の繋がりやまとまりを再認識する。
- エ 保護者同士の交流や地域住民とのふれあいの中で、学校・家庭・地域のネットワークを構築する。

(2) 具体的な取組

ア ふるさとを学ぶ

(ア) すみえっこクラブ

小学校の振替休日や長期休暇に公民館を一日開放し、異年齢の子ども同士の交流や、子ども達と地域住民らがふれあう機会として“集まる・学ぶ・伝える・つなぐ”を実践する活動を実施。

5月：地域の伝統産業「住江（すみえ）のお茶」を知る！

8月：川柳教室「五七五で遊ぼう」

9月：給食で人気の、あのメニュー！を作ろう

11月：地域の文化財ヘレッツ・ゴー・ウォーキング&座禅会

12月：クリスマスケーキを作ろう会

2月：餅つき&ファミリーバドミントンで世代間交流会

3月：6年生お別れ会



【公民館敷地内の茶畑で茶摘み体験と、お茶のてんぷら試食会】 参加者：22名



【川柳教室：五七五で遊ぼう】

参加者：20名

【給食で人気のタコライス】

参加者：17名

【日笠寺にて座禅体験】

参加者：26名



【クリスマスケーキを作ろう会】【5年生が収穫したもち米で交流会&ファミリーバドミントン交流会】

参加者：23名

参加者：36名

イ 地域住民の語らいの場

(ア) 谷住郷を語ろう会

地域住民が地域を語り合う中で、地域社会の繋がりや地域の課題を見出そうと、毎月第1土曜日に実施。



【第1回：語ろう会】



【船津・臼木自治会を語る】



【市自治会を語る】

ウ 学校・家庭・地域の連携協力

(ア) 掲示板活動

公民館に小学校の掲示場所を、
小学校に公民館の掲示場所を設置。

学校での履き物
そろえが地域でも！



【小学校からのお知らせ】



【町内5公民館からのお知らせ】



【すみえっこの川柳を学校でも掲示】

(イ) 「地域の先生」として授業やクラブ活動を支援。



【世界に一つのリースづくり】



【七日淵（なのかぶち）を語る】



【川の学習会】

『命の朝顔』のツルを使っての
リース作りの先生として

地域に伝わる昔話を語る
先生として

江の川に住む生き物と、
漁具の使い方を教える
先生として

3 事業の成果と課題

- (1) 子どもの居場所づくりとして開催している「すみえっこクラブ」では地域の大人が子どもと関わる中でやりがいを感じ、自身の専門性を活かせる取組の提案がされるなど、住民主体の気運が高まりつつある。

その一方で、開催日が小学校振替休日や長期休暇のため、保護者の参加が得られずにいる。家庭と地域との交流を図るためにも、開催日の工夫が必要である。

- (2) 地域住民同士の語らいの場として、「谷住郷を語ろう会」を開催したところ、地域の歴史に詳しい方から資料の提供があり、谷住郷という地名の由来が、二つの村の合併（谷村と住江(すみえ)村）によるものと分かった。そこで、谷村・住江村の歴史を調べることでふるさとへの愛着を深めようと、8自治会の昔を語らうこととなった。

今と昔を語らう中で、少しずつではあるが自治会の課題にも触れるようになり、地域住民自らが自治会組織を考えるよい機会となった。

今後は、地域の歴史や文化を次代へ残し伝えたい「ひと・もの・こと」として形に残すことと、地域課題に取り組むための長期的な活動ができる団体を組織したい。

- (3) 桜江小学校からのご提案により始まった「掲示板活動」では、地域住民が学校を身近に感じられるようになり、すみえっこクラブでやりがいを感じた地域の大人が、「地域の先生」として学校へ出掛けやすくなった。また、公民館も小学校へ掲示を行うことで、地域行事に子ども同士が誘い合って来るようになり、喜んでいる。

他にも、学級取組を公民館HPへ掲載し、協力を呼びかけたところ、賛同者が集まり子ども達の自発的な活動を応援できた。

4 今後の方向性

- (1) 谷住郷の産業や歴史・文化を、大人も子どももそれぞれの機会に学ぶことができた一年であった。谷住郷を語ろう会では、長期的に活動できる団体を組織したい。また、子どもたちと地域の大人との交流を継続しつつ、ファミリーバドミントンを活用しての親子参加による行事の企画や、親学プログラムを用いた交流会で保護者同士はもとより、子育てのベテランである地域の大人との交流を図りたいと考えている。

- (2) 小学校との連携の輪を中学校にも広げ、地域の伝統料理や伝統芸能など、地域の人しか教えることのできないことを、地域親として大人が関わり、学校と地域の連携によるふるさと教育の推進と、ふるまいの向上を図りたい。また、掲示板活動に挙げられるように、行事の開催だけでなく、「見て読んでお互いが分かる」取組も継続していきたい。